

2018年尿道留置カテーテル関連感染サーベイランス

院内感染対策委員会 ICT

期間: 2015年1月～2017年12月 2018年1月～12月

NHSN: 感染率: 2.6 使用比: 50%タイル値 0.79

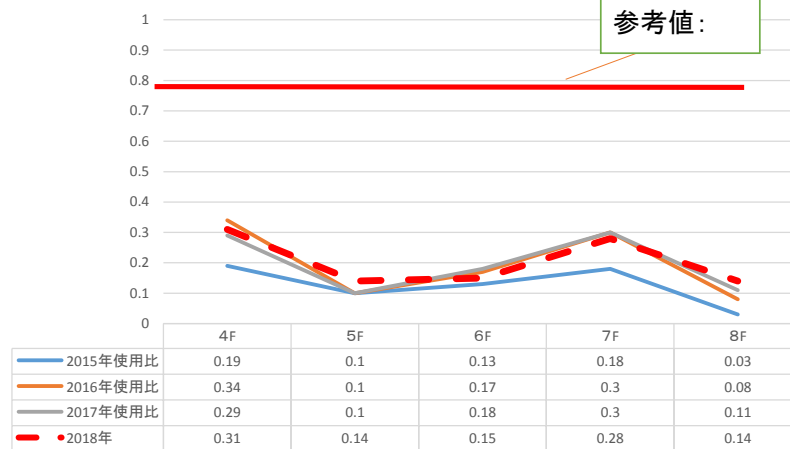
対象: 4F～8F病棟

算出方法: 感染件数/延べ医療器具使用日数×1,000 使用比: 延べ医療器具使用日数/延べ患者日数

各階別感染率推移



病棟別使用比推移



(評価)

- ・尿道留置カテーテル感染についてサーベイランスを開始して4年目となった
- ・使用比に関しては、全体の平均としては0.20で昨年度とは大きな変化はない
- ・長期挿入の理由としては、神経因性膀胱が多かったが、後半7月よりバルーン挿入の理由の明記を看護情報へ実施する取り組みが開始され減少傾向である。
- ・4Fに関しては、褥瘡の持ち込率が他病棟と比較し高く、在宅分野の患者を多く受け入れているため長期になる、抜去できない傾向が使用比の高さに出ている。
- ・回復期では早期抜去のためにアセスメントを転棟後早期に行われている。
- ・感染率がゼロで推移しており、カテーテル関連感染対策の遵守状況の結果といえる。
- ・2016年は定期交換の廃止と、カテーテルの固定を始めた3年目となったが大きく、感染率に影響はなく問題なく経過していると評価した。
- ・2017年は残尿チェックエコー導入などをし、効果測定がすすめられているが、バルーン抜去につながる事例もあるが、再挿入の事例も多い。
- ・今後も様々な取り組みを実施し尿道カテーテルにより感染防止に努めたい

長期挿入者1か月以上 挿入理由件数

